

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスYELL			
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 1日		～	令和7年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数)	8名
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 1日		～	令和7年 2月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	手厚い支援体制	担当職員を軸に、各職員が個々に関わりを持ち、療育に携わっている。個々の療育内容を職員間で共有し、スモールステップを全員で分かち合うようにしている。日々の活動の様子を書面だけでなく、画像録をしている	動画にて見ていただけるよう意識して検討したい 子育てサポート加算や家族支援加算を定期的に活用して保護者様への相談援助やフィードバックを大切にしていく。
2	プログラム内容の充実について	個別活動のワークでは、職員のみで準備するのではなく、お子様と一緒にプログラム等で制作し、準備の段階でも楽しさや達成感を味わえるようにしている。集団活動では、お子様に手本を行ってもらうなど、活躍できる場の提供をしている。 職員間で事前に話し合った上で、様々な内容のプログラム	お子様や保護者様のニーズに沿ったプログラムを実施出来るようにしていく。
3	幅広い年齢層の他児との関わり 小学校1年生から高校3年生までのお子様と一緒に活動している	年齢の異なる他児と過ごすことで、日常生活に必要なスキル等を真似しながら習得したり、関わり方（上下関係）を学んだり出来るよう、他児との関わりを大切にしている。	事業所内だけではなく、他事業所や地域のお子様と関わる事が出来る活動を立案・実施していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門的支援	・言語聴覚士による支援のニーズが高いが、資格者がいない	予算的なことも考慮しながら専門的資格者を確保していきたい
2	人員配置	資金的なことを考えると必要以上の従業員をそろえることが不可能な所がある	いろんな箇所を改善して加算等が取れるよう改善していく
3	保護者様同士の関わり	保護者様同士が顔を合わせる機会が少ないこと。 保護者様やご兄弟が参加できるイベントが少ないこと。	保護者交流会、保護者参観を開催し、保護者様同士の関わりや相談の場を提供していく。 親子（兄弟含む）参加型のイベントを企画していく。